

疫学研究への利用と成果の還元

Utilization of regional cancer registry data for epidemiological study and health planning in Miyagi Prefecture

西野 善一*

1. はじめに

宮城県地域がん登録のデータはこれまで所定の手続きを経て各種の疫学研究に活用されてきた。具体的には、コホート研究における対象者のがん罹患状況の把握、がん検診の有効性評価を目的とした症例対照研究における症例の把握と診断日の特定、がん検診の精度評価における偽陰性例の把握などが挙げられる。以下に疫学研究への利用および成果の行政施策等に対する還元の状態について述べる。

2. 疫学研究への利用状況

現在、宮城県では地域住民を対象としたいいくつかのコホート研究がすすめられている。このうち県単独のコホートとしては、1990年に14町村（当時）の40-64歳住民を対象として調査が開始され、47,605人の追跡調査を継続中の宮城県コホート、大崎保健所管内1市13町（当時）に居住する40-79歳の国民健康保険加入者を対象とし、1994年にベースライン調査を実施した後、有効回答者52,029人の追跡調査を実施している大崎国保加入者コホートがある。このほか全国規模のコホート研究である三府県コホート、JACC Studyにおいても県内の市町村を調査対象地域として研究が行われている。これら全てのコホート研究で、宮城県地域がん登録データとの照合によりコホート対象者におけるがん罹患状況の把握が行われている。

生活習慣とがん罹患リスクとの関連がこれ

らのコホート研究で検討されている。このうち、喫煙のがん罹患への影響に関しては、胃がん、肺がん、大腸がんに関して検討が行われ、いずれの部位においても喫煙によるリスク上昇が示されている。食生活に関しては、野菜・果物、肉類およびアルコール、緑茶、コーヒーといった飲料等との関連について検討がすすめられており、このうちコーヒー飲用者における肝臓がんリスクの有意な低下を認めている。肥満とがん罹患との関連の検討では、BMI（Body Mass Index）27.5kg/m²以上の女性でがん全体のリスク上昇を認めている。

また、宮城県地域がん登録データは各種がん検診の有効性に関する症例対照研究に利用され、その結果、胃がん、大腸がん、肺がん検診について受診による有意な死亡リスク低下が示される一方、視触診による乳がん検診に関しては有効性が証明されなかった。その外に、がん検診の精度評価に関する研究にも利用され、胃、大腸、肺がん検診について感度および特異度が算出されている。

3. 成果の還元

健康日本21の都道府県計画である「みやぎ21健康プラン」において、疫学研究の成果が策定計画に活用されている。重点項目の1つであるがん予防対策について、がん死亡率の低減が目標とされ、関連する具体的項目として、非喫煙率の増加、食塩摂取量の減少、野菜摂取量

*宮城県立がんセンター

の増加、肥満者の割合の減少、多量飲酒者の減少、検診受診率の向上があげられている。その上で各項目の数値目標達成による死亡率低減効果を宮城県における研究を含む疫学研究のデータに基づき算定し、目標達成によりがん死亡率を約 15%低減することが期待できるとした。

がん対策基本法では、都道府県に都道府県が

ん対策推進計画の策定を義務づけるとともに、生活習慣や生活環境が健康におよぼす影響の啓発や知識の普及等を行うことにより、がん予防推進のために必要な施策を実施することを求めている。今後、地域がん登録およびがん登録データが活用された疫学研究の成果が都道府県におけるがん対策の立案にいっそう重要な役割を果たすことが期待される。

Summary

Regional cancer registry data in Miyagi Prefecture has been utilized for various epidemiological studies such as cohort studies in order to examine the relation between lifestyle and cancer, case-control studies for evaluating the effectiveness of cancer screening program, and investigations about the accuracy of cancer screening. Miyagi Prefecture developed cancer control strategy in Health Japan 21 regional plan based on these epidemiological studies. In this plan, it is estimated that cancer mortality will decrease by up to 15% in 2010 if the levels of target values for cancer prevention are achieved.